国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

等閑

ら換連帯ら弘誓文仰連海ら身え
後門出御関不と我山城石連ゐてやと生切ら
ら石横山源承弘今ら国於ら名度し
国人文仕やと元通ゐ始来不ら由ら有弘ら名上
江戸押

寛政九丁巳年
御元服 御首服 御着袴 御髪置 御戒名
御免

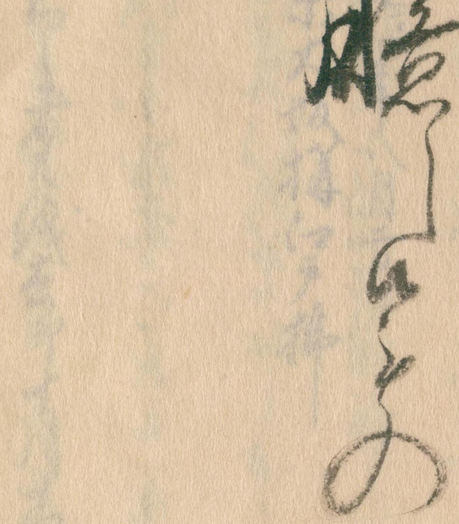
年数十八年

明和八卯年六月廿二日

一百俵

新寺町

右之者儀書くめ被受之候段御届申上
候間不取敢此段相届申候以上
長谷川源之上
六月廿二日
横川福治郎



天明七未年
将軍　宣下之後御免
年数十七年

国立国会図書館　　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

明和九辰年八月二日

一 京大坂掛合之儀

二條玄當

松平石見守迎

石川河内守組之武人

英橋新次郎組之武人

角力

外武人

大小者共武家并寺社方二條玄當之家人

伊賀侍平日ハ通ハ共遠役又ハ番

東大坂構江戸排

天明七未年

将軍　宣下の節

御免

寛政二年

安永元年八月十八日

一 大小名ゟ江戸
十里以内遣状

水戸殿家老
中山大膳元茂殿
家来 沢宿

右之者儀当月廿四日ゟ人ゟ使ニて其許逗中ゟ迄
無滞可相届候 尤書状之儀ハ
箱ニ入封印いたし可遣候 且又酒ハ樽ニ
入之候ハヽ樽ニ可相封候 以上

八月 水戸小性組 松平帯刀

盜

盜

宝暦十三未年十二月十八日

一入墨之上追放

右者盗宿家改帳之
節之儀ニ付例之通
敲之上入墨
急度叱
申渡

神田之新明代地
源左衛門店
百姓帝次郎店
作七

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

入墨之上重追放

寛政元巳年

若年寄御差紙之写

寛政元巳年

一入墨之上重追放

久鳥越御代地

右之者儀浅草鞘屋御代地貸屋住居之処
有之間敷旨追入墨之上重追放
申渡候事

寛政十二年申九月十一日

寺社奉行
十人御連名
のせん

作之丞

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

悪人密通

政一貧窮之又ゝ貴賤共ゝ代参詣之節
余ゝ之於ゝ路頭ゝ乞食ゝ入ゝ事ゝ言ゝ通敷

寛政丈巳年

若年寄 添江所役仰ゝ付敷ゝ
評定

明和元辰年六月廿二日

一 仁戸掛

右之者儀、思召之趣有之、
差免、所持之帯刀、
御取上被仰付候、
依之、中門書付を
以、御断申上候、右大和守殿へ
百石
其の方へ
御預ケ被仰付候間、
四月中、

天明七未年
将軍　宣下御祝儀
御免

寛政六寅年

盜物同意

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

寛政六申年
若君様 御元服
御祝儀

年寄七年

配分

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

安永六酉年十二月廿一日

一 数之上相返放

文村源右衛門
下総国葛飾郡
上三ヶ尾村久右衛門
十七才

右之者儀、芝濱松町
深大寺門前庄兵衛店
俗名西久
俄ニ発狂仕、寺中へ
相預ケ置申候、以上

十月七日

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

右之者儀當二月廿六日改南町奉行所
東京橋川町
三六兵店
重兵衛事
林長

右之者儀當二月廿六日改南町奉行所ニ而
東京橋川町三六兵店重兵衛事林長
右之者儀當二月廿六日改南町奉行所ニ而
東京橋川町三六兵店重兵衛事林長

安政六年五月六日ニ流罪
申渡候ニ付
一、流罪ニ処ス

右之者儀當二月廿六日改南町奉行所ニ而
東京橋川町三六兵店重兵衛事林長
安政六年五月六日ニ流罪
申渡候ニ付
一、流罪ニ処ス

右之者儀當二月廿六日改南町奉行所ニ而
東京橋川町三六兵店重兵衛事林長
安政六年五月六日ニ流罪
申渡候ニ付
一、流罪ニ処ス

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

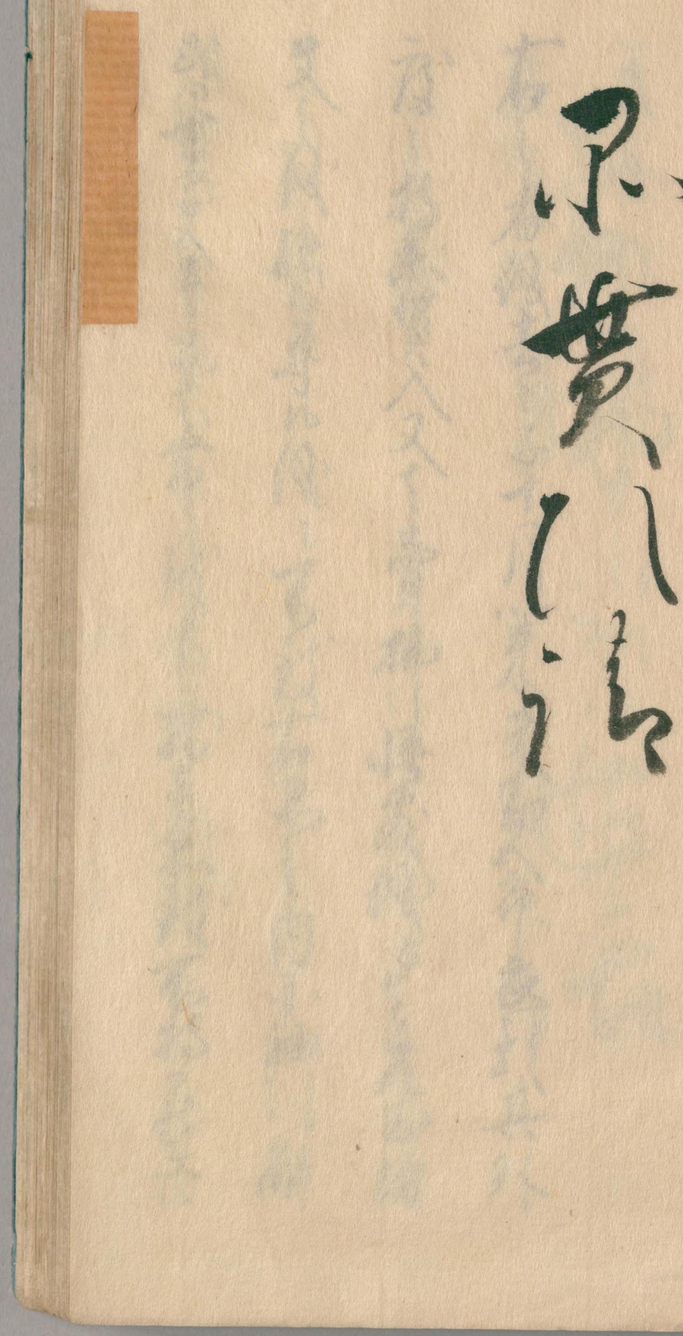
ガラス使用

天明七未年十月二日

一 咽通放

右之者後段別宅前通表玄関ニ掲置候ニ付
為心得申入候
八右衛門家主所司
佐兵衛

芝中門前家主



寛政九巳年
御免
御免
御免

天明二寅年七月廿二日

一、御戸棚

右之者儀去ル子十月業丈助之帰
度ニ荷物積貰入又ニ而貰請帰候
又ニ而彼地ニ而も買取右荷物内小袖ニ解
ニ而買ニ而も無之候ニ付不取敢

寛政改正
手限赦例書

寛政改正
若年寄添状
評定所

天明八申年二月廿九日

一 武家官位之儀

彰考館

天野所役之通

長坂新八郎之申口

角兵衛

右之者儀去卯九月朝日小普請組被差免候
迄多年申分神妙之至ニ付今度新ニ御召抱
被仰付候ニ付御刀二腰被遣之

天明七未年

将軍　宣下済御礼

天明八申年

将軍　宣下済御礼

天明八申年二月廿五日

一和戸藩

寛政七卯年九月勅使参向被仰付候節

過多客中向被仰候処

但去ル九日二勝相達候ニ付

三十石但古道具之儀ハ大高之儀ニ付金
壱分ト銀三百文ニ壱俵ト大高ニ而ハ
ハ不申候ハ不苦候ニ付而ハ世話ニ
壱俵ニ而ハ老神ニ而ハ売買ニ付
ニ不別合ニ而ハ難売用ニ付而ハ
寛政九年
某所ニ而ハ御公儀様ニ
御免

寛政十年

天明八申年十月廿一日
一武家方ニ而
右之者儀ニ付橋爪与之助
村之神元若堂
水野業次
野村
御免

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3
ガラス使用

武家手限赦

寛政元酉年

若君様御元服御祝儀

御免

年数二年

不領知之事

貸主

天明二寅年八月廿七日

一 武家之作法

於平士作法之間

表之通

右之者我儘之事有之不相応盗物之類

世法唯物之論無之間借文書之類不返事

武家之

天明七未年

将軍　宣下沙汰候ものの赦

辛酉七年

天明二寅年八月廿七日

一　武家官位之儀

松平左近将監

佐久間清

右之者儀中間雑人之者ニ而御小袖幷金子等御預ケ被成候節致横領候ニ付重追放申付候処ニ其後相果候趣相聞候ニ付御構無之候

一　銀六百文貸主ニ而相果候ニ付右之者ニ対し貸金済方之儀申出候ニ付右ニ付

永頃り

礼物不苦之候哉之由被仰下候
相勤之程被仰下候事
老後不堪其勤之時

天明七未年
将軍　宣下御祝儀之節
御免

申歳七年

安永九子年十二月十八日

一 仙戸拂

神田横大前代地

宇右衛門店

利八

右之者儀別紙書入墨印初次南町奉行所ニ而
吟味之上重追放
申渡候間早速
江戸拂可致候
若此上
御府内ニ而見掛候ハヽ
召捕
御奉行所江可申出候
尤
御構場所江入込候ハヽ
可為曲事候
以上

子十二月

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

善越願

業折〻書之入用之内不相知之
小通奥指不相知之場所ニ而
請取候ハヽ費掛ニ候ハヽ
右様之相紛候ハヽ
奉書之外無之候事

江戸拂

天明七未年

将軍　宣下御祝儀ニ

越後国蒲原郡北六ヶ村
私領
吉子堂村元庄屋
百姓
外二人

宝暦九卯年九月二日

一 庄屋役名改

右ハ者越後国蒲原郡北六ヶ村私領吉子堂村元庄屋百姓外二人ハ
此度役名改メ庄屋ト唱候様被仰渡候ニ付而ハ向後ハ庄屋ト唱候様
可致候尤御年貢諸上納等ハ是迄之通可相勤候

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

明和九辰年二月十一日

一 大小名より

右之者共武士を相傷
分量も酒を給候段同
疵之儀も有之ニ付
祝儀禄之儀
祝儀禄を相遣候事

出勤定まり

川井越前守殿へ
写
申渡
次本要七

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

一人ニ名ヲ出シ候寺社ハ大小ニ不拘一ヶ寺ニ付
一掛

天明七未年
将軍　宣下済候節之赦
御免

寛政六寅年

明和九辰年二月十一日
一服元之上江戸掛

右ハ者或武士ヲ手負候
得共全病死ニ候ハヽ
不及評定ニ御免ニ成候
尤ハ病死ニ候哉否ハ
此方ニ而ハ難分候間
其筋ニ而吟味之上
此方へ届出候ハヽ
御免ニ成候

川井越前守元衆業
法士
兼友秀

将軍　宣下御礼

御免

年数拾六年

一　弐拾石　江戸掛

右ハ者共菊之丸ニ侍業御免之節
無滞相勤候ニ付格別之御取立ヲ以
御賄方ニ而御買物方ニ被仰付候ニ
付御扶持ハ被召上候事

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

菓子等之投申一切略来候
仕候事有之候節ハ其
寛政九巳年
御元服　御支度ニ候間
一汚免

寅歳七年

寛政十午年十月廿日

一江戸拂

右者俄之入用ニ差詰候
不得已儀ニ候間
格別之御了簡を以
御免之程偏ニ奉願候

小笠原内匠守家来
大久保権之丞申刻
次郎

又今囘組合石仕之通近邊
江戸拂
寛政九丁巳年
御元服 御発輿被仰渡
御免
年数三年

天明七未年九月二日
一 江戸拂
松平定信公御老中被
召出家督之節中堂於
太広寺ゟ七ツ半時過ゟ
暁七ツ半時迄之内ニ
順吉中間与助ニ八桃灯
持参仕ル与助ニ桃灯貸ス

…ず無礼なきよう用事…ること
…成ら相のいえ河…
…帯は相応と扱うこと…
江戸掛

一 寛政七年九月
若年寄御弘…
…免

寛政七年

天明六年九月九日
一 江戸掛

奥医師
松本…
…
八木…

文高
外五人

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

及ニ論ずるニ赤松御門前ニ至ル迄之
間ニ御座候ハヽ御供ニ而及ニ新宮ニ候ハヽ迎ひ門迄
罷出候ハヽ御供ニ而御門内ニ入候ハヽ御供ニ而
門前ニ而人ニ及候節ハ御供ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而
不苦候ハヽ御供ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而
宇兵衛義ニ付被仰渡之趣ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而
寛政九巳年
御元服御祝儀ニ付被仰渡
手錠
御免
赤坂裏傳馬町弐町目
手錠居候人宿
幸蔵つゑ子
源次
安永四未年七月江戸十里四方追放
右之者儀紀州様へ之願
居候趣ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而
ハ無之候ハヽ御供ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而ハ無之候ハヽ御供ニ而

以御届候上ハ向後決而
処々有之候ニ寄当分之内
相違以下水ニ而迎船
仕候ニ付及届候事
一諸家中ハ勿論惣而
大小神祇ニ至迄
一同ニ相心得可申候
一諸家中ハ勿論惣而
大小神祇ニ至迄
一同ニ相心得可申候

同年四月廿日相達
江戸指里程遠近
書記候事

寛政元酉年

若年寄 酒井石見守殿
御免

寅歳十九年

安永三年十二月日

一 敲之上江戸十里四方追放

右者伝蔵二月十七日夜従
松平集人行場中宵敲候
与酒狂之上深川八幡辺米
屋善兵衛店文次郎
方ニ而伝蔵外壱人貸

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3
ガラス使用

天明七未年
将軍宣下御祝儀
御免

手限赦書

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

寛政二戌年七月二日

一 江戸拂

右之者儀、前々月廿二日酒狂乱ニ付、
源川ニ而醫師渡邊庄兵衛妻八方ニ而
戸ロ孔酒代清ニ而及ひ、
ニ而井上勇書中ニ而
投ケ妻八方ニ而奥ニ

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

天明八申年十二月八日

一 敕定 石野遠江守元恒

吉川林美
外 弐人

右之者共家名敕免之旨被
仰渡畏入奉承知候依而御
請書差上申候以上

石野遠江守
吉川林美
外弐人

寛政元酉年十二月廿日

一 敕定 石野遠江守元恒

吉川林美
外 弐人

右之者共家名敕免之旨被
仰渡畏入奉承知候依而御
請書差上申候以上

石野遠江守
吉川林美
外弐人

寛政元酉年十二月廿日

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』 請求記号 814-3

ガラス使用

一 一致ニ付
十里已方追放

右之者共家内方年若之者
共ニ而者無之酒狂ニ而所
行ニ而者無之候得共人命
ニ拘り候儀ニ付
御定之通
御評議之上
申渡

寛政元酉年十月

長吉
外
文

一 一致ニ付
十里已方追放

右之者共家内方年若之者
共ニ而者無之酒狂ニ而所
行ニ而者無之候得共人命
ニ拘り候儀ニ付
御定之通
御評議之上
申渡

寛政元酉年十月

長吉
外
文

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

武家

法外

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

寛政九年
御定服　御宮住淨衣ニ
御免

手数十七年

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

寛政二戌年七月十九日

一 松平阿波守元中間

伊助

右之者常々月二百文ニ而阿波ゟ借ニ受候ニ付借行間
家賃ニ酒を酒粕ニ而松平陸奥守家来水井
宅ニ集り寝ニ着候ニ付寄合之節ニ寝惑ニ而寄合ニ而
中ニ而七ヶ所ニ而逆手ニ掛かけひ者額ニ而ケ所
候ニ付ニ而ケ所ニ而ケ所ニ而ケ所ニ而ケ所

勤方等学

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

宝暦九卯年九月二日

一 高反ヶ之
　 民家市稼

右者其村百姓共之
以後ニ至ル迄中山浦共
茅代米貢之越札ニ
永之割附ニ諸浦同様ニ
割出米ニ而貢納可
申候

元代官
山中浦庄所
服田十兵衛
和三人

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

一 寛應十辰年十月廿日
中 返放

御製薬師
専門徒御弘誓
難波河裏江
元辰文配人
平之帝

奉者承勅令筆之講師
宿次法橋文遊中之
畢速令加修文之成道中
以下一筆御願之奉

文四年七月十日
来ル十五日ヨリ御遊事止候事
来ル廿五日ヨリ御仕放之事
但当年ハ中遠放

天明七未年四月

将軍　宣下済候ニ付出放
御免

年数廿八年

寛政元酉年六月十八日

一武家諸法度

田安家老
青山但馬守
用役
小林忠左衛門

右之者共儀御勤向
来七月十日被差免候ニ付
御八座ニ而被仰渡之趣
今般当御代始ニ付
御免ニ成候間
御請申上候事

不許出者

[illegible]
[illegible]
[illegible]

明和七寅年三月廿七日

一 宮平宝院方追放

右之者儀若義ニ付
重キ上致自害ニ
醫師ニ而指置候
若義疵和ケ
手當ニ而存命
手當ニ而存命

泳川海老之丞
成合清之丞
泳右衛門

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

…者ヲ囚ヘ之ヲ死殺ノ所…
…堂等ノ怪変ヲ有ス…
…ヲ…旨ヲ…
…渡海ヲ…
…於テ有合判押ヲ…
…等ヲ…
…放

五月七日

将軍　宣下

…

寛永十八年

…

明和七寅年五月廿七日

御掛

源川海ヲ大河

…

右者共ヲ悪方ヲ…
…改目害ヲ…
…処ヲ…
…ヲ…
…ヲ…
…

童キ品五落

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

寛廣十年十月十日

一 重追放

清輝寺藤師
永於為九通行金所下町
金門徒物之通し名代
下長者町色浄福寺
西ノ町保寿之店
半之清

右者宿次証文不
分明ニ而之義ニ候ハヽ
尋出次第ニ可申上候
尤清輝寺ハ追放
ニ付名代ニ而差出
候事

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

814
26
3

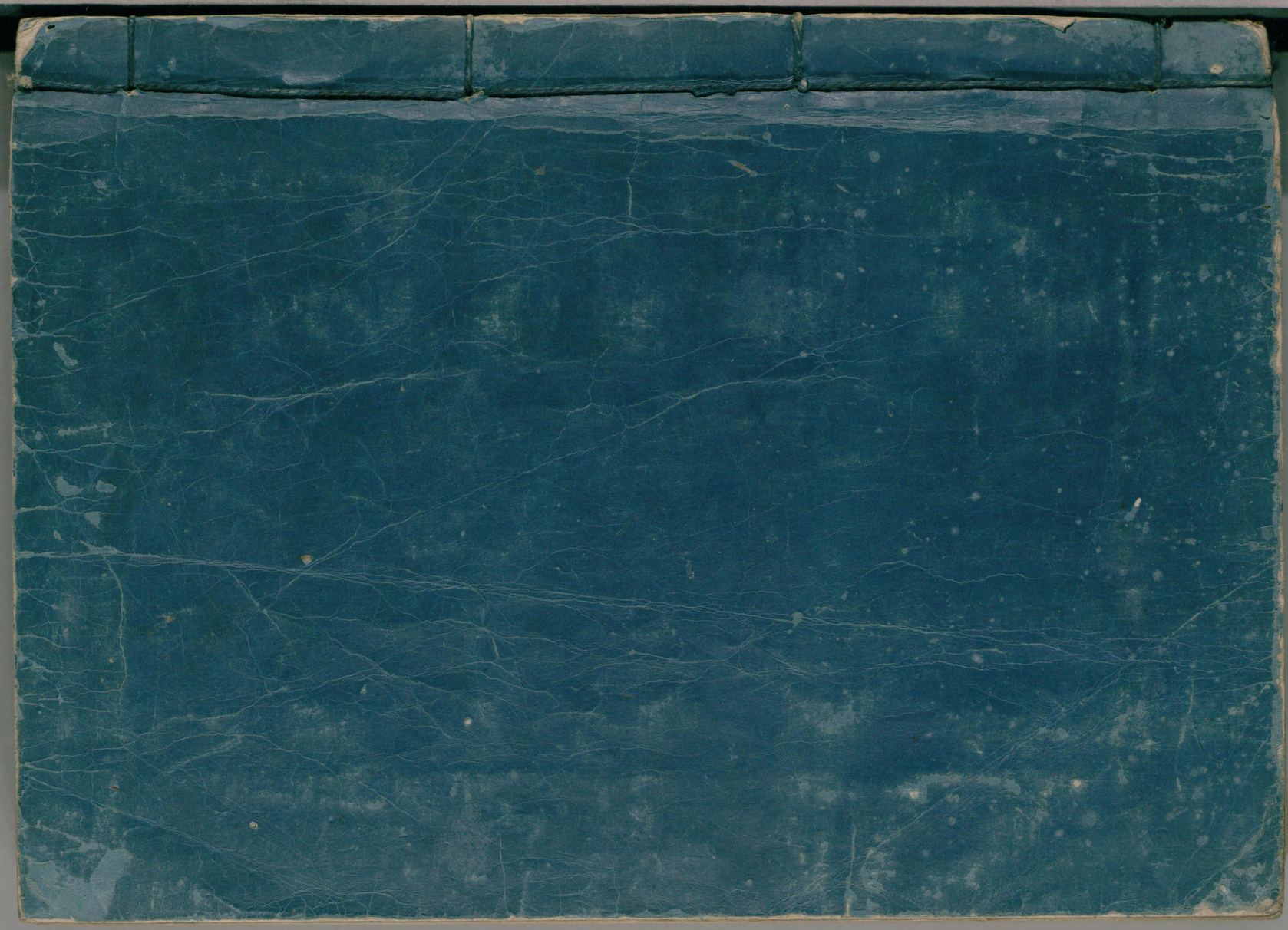
将軍
御免

寛永廿年二月廿七日

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』　請求記号 814-3

ガラス使用

[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『手限赦例書』請求記号 814-3

ガラス使用